

自由闊達。それが独立。

靉光の「眼のある風景」[※]は第8回独立展(1938年)に於いて独立賞を受けた作品です。この暗雲ただよう年代にあって、全会員参加の審査によりこの作品が評価されたことを我々は誇りとしたと思います。

我が国独自の文化といわれる公募団体展は、作家のみによって作品の評価を買い取ってきたことで、美術の太い道筋をつくってきたと自負します。

激動の時代の波、世界的な芸術潮流の波、公募展に対する評価の波をくぐってきて今があります。

幾多の俊英を輩出してきた独立展ですが、親しみやすい一面も持っています。

独立展に出品したことのある作家たちは、その場で百人の知己を得るといった感情を持たれたことと思います。

独立の会場だけでなく個展やグループ展の会場にも多くの仲間たちがおしかけて、画論をたたかわれています。

どうして独立の人たちばかりそんなにがんばるのでしょうか、といわれたことがあります。

「独立」という言葉を聞くだけで血が騒ぐ。そう、独立の作家たちは熱い心の持ち主たちです。

清新な力作をお寄せ下さい。そして、仲間になりましょう。

(※:東京国立近代美術館蔵)

2017年度代表 今井 信吾



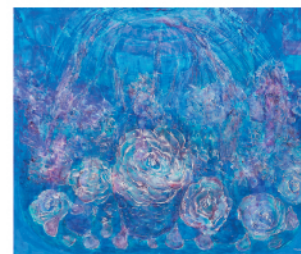
独立賞 井上 達也



独立賞 木村 由紀子



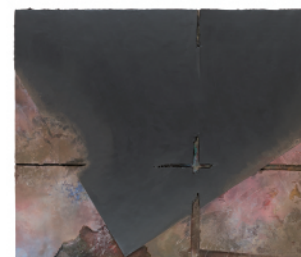
中山賞 児玉 沙矢華



山田文子賞 芝田 キク



損保ジャパン日本興亜美術財団賞 井阪 文紀



TJ賞 阪本 聡



小島賞 伊藤 裕貴



山田文子賞 坂口 八重子



損保ジャパン日本興亜美術財団賞 河合 規仁

独立展に
出品しよう

>>>>

